

<p>データサイエンス</p>	<p>【代表的な研究テーマ】  <b>□ データサイエンスの社会実装推進</b></p>
<p><b>key word</b></p>	
<ul style="list-style-type: none"> <li>■ データサイエンス社会実装推進</li> <li>■ 戦略的意思決定</li> <li>■ プロジェクト管理</li> <li>■ 新規事業開発</li> </ul>	<p style="text-align: center;"><b>課題解決に役立つシーズの説明</b></p>
	<p>はじめに：          グローバルトップグループのIT企業にて、長年にわたり企業や自治体のデジタル化に取り組んできました。新規ビジネス開発、M&amp;A、統合計画、事業撤退などの戦略的意思決定にも数多く携わってきました。豊富な海外でのプロジェクト経験をもとに不確実な外部環境下におけるDX時代の判断(ヒト、モノ、カネ、時間の配分)のサポートも可能です。多角的な視点で連携によるシナジー効果を起こしたいです。</p>
<p style="text-align: center;"><b>深谷 良治</b> Ryoji Fukaya</p> <p style="text-align: center;">データサイエンス・AIイノベーション 研究推進センター 教授</p>	<p><b>企業・自治体連携プロジェクトにおけるKSF(Key Success Factor)を意識して：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 目指すゴール設定             <ul style="list-style-type: none"> <li>・新しいビジネスチャンスを広げられるような革新的な目標を定めます。</li> <li>・競争優位性を確立できるような方向を目指します。</li> </ul> </li> <li>② 検討対象テーマ             <ul style="list-style-type: none"> <li>・解決すべきビジネス上の課題を抽出し、優先度を考慮して最重要課題を選定します。</li> <li>・あくまでもデータサイエンスによって解決可能なテーマを検討対象とします。</li> </ul> </li> <li>③ データ収集             <ul style="list-style-type: none"> <li>・分析に必要なデータの取得ができることが前提条件になります。</li> <li>・データ取得のコストが高すぎないことにも留意します。</li> <li>・データ分析にあたってのビジネス上の制約がないことも事前に確認します。</li> </ul> </li> <li>④ お客様側のプロジェクト推進体制             <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロジェクト実施の責任部署と実施体制が明確であり、やる気があることが案件実施条件です。</li> </ul> </li> <li>⑤ データサイエンス技法(モデリング)             <ul style="list-style-type: none"> <li>・適用する手法(モデル)は業務の要件に適していることを確認します。</li> <li>・ビジネスの問題解決にとって意味がある取り組みを共に考察します。</li> <li>・選択した手法(モデル)はお客様にとって理解可能なものとして開示します。</li> </ul> </li> <li>⑥ 社会実装             <ul style="list-style-type: none"> <li>・導き出したソリューションを実際のプロセスに対して導入することを支援します。</li> <li>・運用フェーズに円滑に移行できるように実装上のすりあわせを支援します。</li> <li>・データ分析を生かした意思決定プロセス改善への手助けをいたします。</li> <li>・現場業務に改善プロセスが定着化するまで伴走いたします。</li> </ul> </li> </ol>
<p><b>【プロフィール】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1984年 東京大学経済学部卒業 (統計:竹内ゼミ)</li> <li>・1989年 日本電信電話公社入社</li> <li>Stanford 大学 工学部 Engineering-Economic Systems, Master of Science</li> <li>・1990年 NTTインターナショナル(米国)</li> <li>・1995年 NTTファン企画</li> <li>・1997年 NTT/NTTコミュニケーションズ</li> <li>・2000年 NTTオーストラリア</li> <li>・2004年 NTTレゾナント</li> <li>・2006年 NTTデータ</li> <li>・2011年 NTT Data Asia Pacific, CEO</li> <li>・2019年 海外通信・放送コンサルティング協力, Chief Digital Advisor</li> <li>・2022年 滋賀大学 現職</li> </ul> <p><b>【主な社会的活動】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・情報通信学会</li> <li>・情報処理学会</li> <li>・プロジェクトマネジメント学会</li> <li>・日本統計学会</li> <li>・2015年 シンガポール日本商工会議所 運輸・通信部長</li> <li>・2017年 同上 副会頭</li> </ul>	<div style="text-align: center;">  </div>
	<p><b>企業・自治体へのメッセージ</b></p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的意義が高いテーマの共同研究を希望します。</li> <li>・論理的思考により戦略立案と質の高い意思決定をご支援します。</li> <li>・データサイエンスの社会実装に関して幅広い視点から助言させていただきます。</li> <li>・プロジェクト管理の経験共有から実装後の定着化までアドバイスいたします。</li> </ul>